

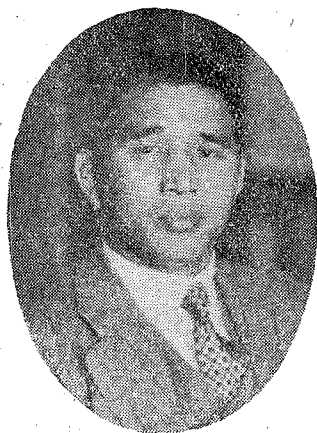
説苑



歴代内務國土局長と其時代 (二十六)

— 新居善太郎氏 —

清水生



内務の機

構改正と

二代目の

國土局長

曩に内務省

では閣議の結

果に準據して

時局に即應する戰時行政の運用を益々發揮せんがために一層高度の計畫性、効率性を保たしめん目標の下に内務行政の全般的再検討を加へて、特に現下の情勢に照して國家防空の整備徹底を期し以て、防空諸般の對策等を急速に促進することは喫機の急務たりとの見解の下に、茲に重點を置いて從來の計畫局を防空局と改稱して、その機能を擴充すると共に防空の陣容を整備したのであるが、更にこれと關

聯する土木行政の運用にも一段と重點主義を採用して以て國土の防衛保全開發を促進するために從來の土木局の全部

と計畫局の所管であつた計畫局の都市計畫及び地方計畫を統合して、國土局なる一局を新設して國土防衛に萬全の態勢を講ずると共に、畢竟時局即應の土木行政の進展を企圖したのであつた。而してこの省内機構改正による初代の國土木局長には前記したやうに成田一郎氏が改正以前の土木局長から引繼いで新國土局長の椅子について居たが、同氏は國土局長としての在職は僅かに一箇月と十日間であつた

が、これは昭和十六年十月十八日に近衛内閣に代ふるに東條内閣が生れると成田氏は地方局長に轉じたからである。而して其の後任には當時鹿児島縣の知事であつた、新居善太郎氏が本省に戻つて所謂二代目の國土局長の椅子にいたのである。當時内務省の首脳部は内相に東條首相の兼攝であつて、次官には後ちに内相となつた湯澤三千男氏、地方局長は前記した成田一郎氏であり、又警保局長には今松治郎氏都市計畫長には藤岡長敏氏等の顔觸れであつた。當

時の内務の陣容はかやうな人々に依つて組織されて居つたのである。

始めて官界に入る

偕て茲に例によつて新居氏の略歴と云ふか、官歴と云ふか、兎も角氏の官界進路を見ると、先づ大體に於いて他の優秀型の役人と同じやうに所謂官吏たるものの典型的経路を辿つて居る。即ち氏も順風に帆を擧げて官海浪靜かに走つて居ることが判明されるのである。

栃木縣足利市の本城町三丁目の富豪新居家に明治二十九年一月十六日に産聲を擧げて以來、長じて小學中學高等學校と順次に優等の成績を以て卒業すると、更に東京帝國大學法學部に進んで大正十年六月に法律科を了へ、同十一年二月に始めて官界に入つて最初は東京府屬を振出しとしてゐる。同年十一月には高等試験行政科試験にこ

れまた優秀の成績で合格して居る。元來人間と云ふものは只だ單に試験のみを以て其の人の

能不能腦力其他人間の保持する有ゆるものが判明するならばこれ程人間觀として簡單なものがないが、然し只だ試験のみでは其の人物を測定するこの困難なることは古今東西の歴史を通じて所謂偉人とか英雄とか云はれて史蹟に残る人傑は試験の如きものを通過したる人物でないことを見れば試験のみを以つて人物を律するが如きは所謂官僚輩のみに通用する感があるか、併乍ら現在の國家組織に於いては即ち國家最高の試験を通過することは頭腦明晰にして所謂秀才でなくんば容易にパスすることの困難なるに想到すれば、兎に角これを通した人は取直さず優秀の人物たりと云つても可なりである、況んや新居氏の如き同じ通過するにも非常の好成績であつたことは秀才中の秀才と云つても可なりであると思はれるのである餘談は措て置いて、

其後氏は大正十二年三月に當時若年を以て廣島縣佐伯郡の郡長となつてゐる。

が、全體郡治と云ふことは大抵多年經驗を積む所謂老功の人がその長としてことに當つても却々困難なる仕事で

あるが、氏は若きを以てこれに當つて大いに治蹟を擧げ當時郡民は氏がこゝを去るのを惜んだのを見て若年既に多分に行政的手腕を持つて居たことを察知出来るのである。

行くところ可ならざるはなし

而して氏は約二箇年餘郡長として在職郡治に携つて居たが、大正十五年五月に復興局事務官となつて帝都に歸へり、次いで昭和四年五月に本省に入つて内務事務官となり、更に同七年六月には齋藤内閣の成立と共に内閣總理大臣秘書官を兼任して居たが、同九年三月に文相鳩山一郎氏が桂冠したので齋藤首相が文部大臣を兼攝するに際して氏はまた文部大臣秘書官をも兼任して居る。かくて昭和九年七月八日齋藤内閣が總辭職に連れて氏もまた首相兼文相秘書官をやめたが、當時後繼内閣は齋藤内閣の海軍大臣であつて後日天下に醜體を残した岡田啓介氏の内閣であつたが、氏は同九年七月に内務省書記官となつて土木局の道路課長に就任してゐる、更に同年八月には

鐵道省書記官を兼任して居つたが、更に昭和十一年十月廣田内閣の潮内相の下に土木局の河川課長に轉じ、更に翌十二年二月林銑十郎陸軍大將が内閣を組織して河原田稼吉氏が内相として入閣すると氏は河川課長から大臣官房人事課長兼内務大臣秘書官に拔擢されて居る、而して昭和十三年第一次近衛内閣が厚生省を新設して木戸侯が厚生大臣に就任すると氏は厚生省に轉じて社會局長として勅任に進み、第二次近衛内閣の時代即ち昭和十五年八月には再び内務系統に歸つて維新前後に於て幾多の英傑を輩出した本邦の最南端鹿兒島に長官として赴任してたのであつた。

我國有史以來の千載一遇の超非常時局……この重大なる時艱を克服して所期の國策を遂行するためには中央地方内外打つて一丸とする舉國一致體制のいや上にも確立が必要であるから氏は茲に力を注いで國家行政の現地第一線を擔當するの重大の責務を帯びたのである、然して氏の過去に於ける行政的手腕力量は行くところ可ならざるはなく、

茲にも亦氏は時局即應の諸施設を完うして所謂縣治上相當の成績を擧げて居る。

茲には一つ／＼具體的に書くことを省略するが、氏の鹿兒島縣知事としての在職は僅かに一箇年の短期間に過ぎないが、却々治績が上つてゐることは、鹿兒島を視察した某氏の筆者に對して話されたことでも判明するのである、而して昭和十六年十月二十日に前記したやうに二代目の内務國土局長として就任して同十六年七月一日附を以て地方局長に轉じたのであるが。

かやうに氏の閱歴が示す如く、氏は國土局の前身たる土木局には嘗て道路河川の兩課長を勉め土木行政については相當の識見負抱を有し、亦實地に携つた經驗者であることは決戰體制下に於ける我國土木行政の即應に大いに意を強くしたのであつた。

新居氏の時局觀

氏は刻下の非常時局と道路問題についてかやうに云つてゐる即ち。

念ふに大東亞戰爭は東亞の和平安定に關し隱忍に隱忍を重ねて盡し、爲すべきを爲したる積年の努力が水泡に歸せんとし、帝國の安危存立に重大なる脅威を加ふることとなりたるため、止むに已まれず驟然起つて米英兩國の執りつゝある一切の障害を破砕せんとす實に世界未曾有の一大聖戰である。

と先づ戦ひの正義觀を述べて、次いで。

徹底的に米英兩國を撃破し、あくまで米英兩國をして帝國不斷の努力と不拔の意志とに屈服せしめ、數百年に亘る東亞に於ける禍根を爰除せざるべからざる大戰爭である。

と戦ひの目的を明瞭に云つてそのあとについて。

緒戦に於いてはまたたく間に戰略的にも政略的にも不敗の地位を獲得し最も有利なる状態に在ることを得たのである、然るに彼米英兩國は假令敗戦に重ぬるに敗戦を以てしても彼等の經濟力、就中生産力を持つて強靱と執拗とを以て我に反攻せんとするのであつて、決して敵を輕

視すべからざる状態にある。

とて、われ／＼の戒心を要することを云つてゐるがこれは恐らくは現在の戰爭様相は科學技術戰と云つても敢へて過言ではないから、敵米國の工業力或は生産力技術力又は資源等の老大は畢竟敵の反攻の基礎となつて居るこの點を指して氏は敵を決して侮つてはならぬことを警告してゐるやうに思はれるのである。果して然りとせば全く同感であり又國民はこの點を大いに自戒すべきであると思はれるのである續いて氏は。

今次戰爭は所謂總力戰の争ひである。各國が其の興廢存亡を賭しての戰爭であり、最後の五分間まで持ち耐ゆるか、否の争である。一億國民が思を一にして力を協せ戦ひ抜くの覺悟を要する時は今日に在るのである。

と、所謂獨逸の名將ルーテンドルフが唱へた總力戰と國民の覺悟とを言葉を替へて説いて一層國民の奮起を促して轉じて。

政府が不斷の作戰に配するに生産力擴充の計を以てした

る所以のものは其の意圖の存する所を推知するに足る。

政府が茲に着意して昭和十八年度の歳出豫算編成の方針を立つるに方り軍事費と生産力擴充費とに重點を置きたるは蓋し當然の事なりと思料する。而して必勝豫算の概算に依れば我が國土局主管に屬する道路費としては國道改良に要する經費、特殊國道改良に要する經費、國道及府縣道改良費補助に要する經費等合せて總額二千二百五十餘萬圓にして昨十七年度と略々同額である。之に依つて軍事及生産力擴充に順應して其の効果を擧げねばならぬのである。之が實施に際しては如何にして最も效果的にして克く其の所期の目的を達成し得べきか、須らく戦時下國家總力戰に合致するの工夫を凝し、缺乏せる資料、不足せる勞力を克く活用して違算なからんことを期すべきである。

と決戰體制下に於ける土木行政土木事業の概要を説いて居る。筆者はこれを讀んで現下非常時局に對する氏の抱懐せる意見の一端を克く窺はれるのである。

鈴木技監に聞く

前の國土局長……現地方局長新居善太郎氏と云ふ人は大體前記したやうな人物ではなからうかと筆者は想像して居るが、畢竟其人を洞察するには周公の所謂人に聞き而して其人に面せよ……と云つた言葉は最も意義あるものと思はるゝので筆者は某日内務技監である鈴木雅次博士について博士の見る新居觀とも云ふべきものを聞いて見たが。

新居局長は非常に眞面目の人であつて、又事に當つては非常の精力家努力家である。而して一言一句もいやしくせないと云ふやうな有様で性格は所謂謹嚴にして俗に云ふ几帳面である。しかも清廉公正にして常に部下は克く君に敬服して居つた。

と先づ此の性格をこのやうに語られて。

趣味か……私の聞くところでは新居さんには何等これと云つて趣味はないやうに聞いてゐる、強いて云へば激務の傍餘暇を得て讀書をする位であるやうだ、これは氏は常々に餘りに仕事に熱心の結果、趣味とか、娯樂とかい

ふ方面には感興が湧かないのではないかとも思はれるのである。氏は表面は非常に嚴格のやうに見へるが、平素部下等に對しても非常に細かい點にまで氣が付いて、その思遣りは深く親切であるから従つて部下もよく氏の心持ちを熟知して居つて仕事は須次克く運んで居つた有様である。

と、博士は述べたあとで。

新居局長は内務事務官書記官時代にも土木局に關係して居られて道路課長、河川課長等の椅子に居れたから鹿兒島縣知事から國土局に轉任して來られたも云ば我家に歸つて來たやうな次第であるから従つて土木行政には頗る明かるく、全く斯界の權威者である。特に道路課長時代にはあの關門海峡隧道の調査、新京濱國道新設の二大事業を始め道路問題には幾多寄與されてゐる。また國土局長時代は土木受難時代であつて、豫算關係は勿論、資材勞力其他有ゆる障害があつたが、これは勿論現下の時局の關係からして止むを得ざることであるが、夫れでも氏

は時局に即應して道路河川港灣の諸事業に國家發展のため盡された功績は頗る大である。

と、鈴木技監は言葉を結ばれたのであつた。

超非常時局と行政官の典型

思へば近代戰と國土計畫と云ふことは戰時經濟の見地からして非常に重要な意義を持つやうになつて來たのであるが、殊に産業立地、軍需工場立地等の關係が重視されるのは當然のことである、これは兵器の發達、戰爭科學の驚異的なる進歩を日一日と遂げつゝある現代に於いては往時に於ける工業立地條件を根柢から修正するの必要を生ぜしめるやうに思はれるのである。更に産業立地に於いても亦然りであり、畢竟其國の資源は人的資源たると工業及び農業の生産地たるを問はず、これを連絡する輸送路と共に一大檢討を加へて長期消耗戰に對應すると共に國土防衛に完璧を期せねばならぬ。嘗て獨逸の學者フォン・ウエルネル・クライツはドイツチェ・フォルスウィルト誌に國防立地計畫と戰略との關係及び生産力増強を論じたる内に於い

て。

戦時に於いて敵の空爆から生産を保護し得る方法、多角的に構成された運輸網、原料品及び農産物の分業的生産に對する半製品の輸送に於ける最後の運輸要求。

等々と各項目に互つて詳細論じてゐるうちに於いて國土計畫に伴ふ土木事業……土木行政のことにも論及してゐるが、曩に鈴木技監の談にもあつた如く新居氏が國土局長時代には土木事業の受難時代にあるにも拘らず、氏は治水、河川道路、港灣の諸問題を時局に策應せしめてこの方針の下に着々と所理して行つたことは取も直さず間接的には資源の最大活用と生産増強に裨益するところ甚大である時局は今や層一層と苛烈なる現狀に鑑み政府は戦力の飛躍的増強と國防治安の確保等國內諸態勢の強化を指標に現下の緊急要請となつて居る即ち食糧の増産、企業整備等の強力なる推進を期して居るが、内務首脳部の一人としての新居氏の如きは氏は云ふまでもなく世の所謂英雄型とか偉人型とか云はるゝ如き人物には非らざるも、この超非常時局に行

政官吏として内務行政に参加して居ることは最も適材を適所に置いたものであつて、氏の純情至誠勤勉等の性格は延いては官吏として最も必要なる高潔無私となり、明鏡止水のごとき良心を持つて克く不屈不撓、渾身の精力を自己の職務に傾倒して以て孜々と其の行政事務を敏活に所理して効果を擧げていくことは取も直さず好良の行政官の典型であると云つて敢へて過言ではない、と思はれるのである。

「以下次號」

